

花みづき

第29号/2015.4.1

白梅学園大学・短期大学図書館
小平市小川町1-830 TEL042-346-5626

むしの本・本のもし

保育科 教授 吉川 研二



子どもの頃、私が育った家の周りは生きものであふれていた。家の中にもいろいろな虫たちが自由に出は入りしていた。虫に興味を抱くようになったのは小学生の頃から。父と一緒に集めた虫の標本が夏休みの宿題となった。父の書斎で、横山桐郎著『日本の甲虫』(昭和6年)、平山修二郎著『甲蟲圖譜』(昭和15年)などの図鑑を見つけたのはだいぶ後である。戦災を逃れた貴重な本なので、子どもの私には見せないよう隠していたのだろう。

昭和33年春、家族とともに東京に移った。大学で生態学を専攻し、昆虫学の本を読み、家の中の暗い場所ですりすまると生きる小さな虫たちを知った。本に関係のある虫、コナチャタテムシ、ヤマトシミ、フルホンシバンムシなどである。

書棚から埃だらけの本を取り出すと、小さな虫が2本の糸状の長い触角を伸ばしてチョコチョコと動き回る。小さすぎてほとんど気づかれないが室内のどこにでもいる。翅は退化しほとんど無く、体長1mm内外のうす茶色のコナチャタテムシで、本の糊や澱を食うのでBookliceとも呼ばれる。時にはページの間で不慮の事故にあった押し虫に出会うこともある。活字よりも小さいこのちっぽけな住人を愛おしく思う。

茶立虫の名前は、古い日本家屋の障子紙の上などにとまって「サッサッサッサッ・・・」と茶筌で抹茶を立てるような音を出すところからつけられた。江戸時代の『千蟲譜』という書物の中に“胡麻一粒大サナリ因テ虫眼鏡ヲ以テ写ス秋月提燈紙上ニテ微声ヲナス事小豆ヲ洗フニ似タル音ヲナス稀ニ有リテ形ヲミトメ難シ”と、古くから小豆洗い・菜刻み・仏の囁きなどの名で呼ばれていたとのことである。住宅の西洋化が進むとともに、我が家のような古い木造の家は減り、‘小豆洗い’も消えつつある。

標高1,100mの浅間山麓の林の中に、父が建てた小さな山荘がある。山荘には東京の自宅から運び込んだ先々代からの本が置いてある。ぼろぼろの革表紙の百科事典、動植物の図鑑、山の本、小説やノンフィクションなど種々雑多な古本である。

初夏の林は鳥たちの囀りで美しく明るい、家の中は湿っぽくうすうすと臭い。押入れや物置を開ける

と、体長1cm足らずの小虫が見かけによらぬ速さで逃げ隠れる。急に明るくなって慌てたシミたちである。翅がまったく無く(無翅類)体は鱗片におおわれているので銀白色に見える。衣魚・紙魚・書魚という字からわかるように、昔からシミは古書、とくに和紙の本の害虫といわれてきた。シミが最も好むものはでんぷん質であり、粉や麺類などや、製本用の糊などを食べて生きている。物置にある缶や箱に貼った紙、空き瓶のラベル、紙袋などには地図模様の食痕が見られるが、本に被害は無いようである。

植物学者牧野富太郎は“アノ書物へ矢鱈に孔をあけて喰い通していくヤツは決してシミではない。是は甲虫の1種で其成虫は長さ3耗有るか無いか位な栗色をした小さいヤツである。其仔虫はチビの癖にトテモ強力で口から粘液を出しては書物を縦横に喰い穿ちお構いなしに其処此処を孔だらけにする・・・コイツが一番書物を害する。コナ悪いヤツはいない。”と述べている。

何ページにもわたってトンネル状に古書、特に和紙の本に穴をあけるのは、体長3mmほどのフルホンシバンムシという微小な甲虫である。蔵書の中に、康熙字典、膝栗毛、和算書など江戸末期から明治にかけての和本がある。これらに、この虫が食い荒した痕が見られる。昔は古書の大害虫であった。建物の近代化が進み、小豆洗いのスカシチャタテムシも、フルホンシバンムシも、知られざる絶滅危惧種となりつつある。

昔、本にかじりついてばかりいるガリ勉を衣魚のようなヤツといったとか？

今、‘スマホのムシ’は増殖し、‘本のもし’は希少種になりつつある？

本を食害する昆虫



コナチャタテムシ

ヤマトシミ

フルホンシバンムシ
幼虫(左) 成虫(右)

© Saki Aizawa

図書館注：2015年3月保育科卒業生の相澤咲季さんに昆虫のイラストを描いていただきました。

類型と個別性

子ども学部 発達臨床学科 教授
西園 マーハ 文

以前勤めた職場では、都民向けの精神医学講座を時々開催していたのだが、その折に、私の元患者さんが参加され「今日の話に出てきた事例は私のことですよ。」と、講義後声をかけてもらえることが何度かあった。このような場で特定の患者さんの話をしたことはないのだが、疾患とは不思議なもので、症状が出揃うとそれはある類型をなし、どの人の症状も似て見えるということがある。ご本人にとっては、他人には体験してもらいようもない自分だけの悩みなのだが、多くの患者さんに接する私たちから見ると、個人の苦悩は、個別性を持ちながらも一つの類型にあてはまるということがあるわけなのである。

20年ほど前、私が某大学の心理学科で非常勤を始めた頃、ある先生から、疾患や病的現象の型を本物以上に示す文学作品もあるという話を聞いた。それ以来、本を読む時は、何か精神現象の型が描かれていないかという目で読む職業病に陥っている。例えばサマセット モームの短編『雨』。精神分析で言う否認や抑圧という現象が鮮やかに

描かれ、実際の事例より、初学者にはわかりやすいだろうと思う。また、チェーホフの短編『ねむい』。睡眠剥奪状態で子守をさせられている少女の、精神変調へのプロセスの描写が見事である。

最近「私の病気体験」を手記や漫画にして公表する方が増えた。病気の類型の説明に体験者ならではの記述が重ねられ、闘病中の方を大いに勇気付ける作品も多いのだが、中には「私の体験の吐露」ととどまる作品もある。心理学や精神医学を講ずる立場から言うと、創作ながら、文学作品の方が病理現象を伝達するのに有用なこともあるのである。(もちろんこれは、闘病手記を書かれた方のご苦勞を否定するものではない。)最近流行しているサイコスリラーには、あまりリアリティーが無いものも多い。なぜモームやチェーホフは、「確かにこのような現象がある」というリアリティーを持つ創作ができたのだろうか。ひょっとしたら、二人とも医学を修めたことと関係があるのかもしれない。チェーホフ先生は「医学は正妻、文学は愛人。」とおっしゃったそうである。愛人の方を断然^{ひいき}鼻眞になさったのではと推測するが、正妻も一生捨てることはなかった。講義の題材探しを兼ねて文学に接している私に、文学を愛人にする日は来そうにないが、良き友人としながら医学の方も続けていきたいと思っている。

失敗していいんだ

2015年3月子ども学科卒業生
芝崎 理奈

「人間は誰でも失敗する」。この言葉を聞いてどう思いましたか。ハッとしましたか。それとも聞きなれた言葉だと思いましたか。

私の経験上、この言葉は自分が失敗し追い込まれているときほど忘れてしまうものだと思います。だから言われるたびにハッとします。“失敗は許されないもの”という気持ちが強い人ほどそうかもしれません。自分にも相手にも厳しくあろうとしてしまう人も多いのではないのでしょうか。

私は峯村武子著『Holland Style』¹を通して、「失敗」を考えてみました。この本はオランダにおける働き方と教育の特徴的な部分を簡単にまとめたものです。一見「失敗」とは何の関係もなさ

そうですが、安心して失敗できる仕組みを知ることができます。誕生日は最も特別で、どんな失敗でも許されるというユニークな風習もあります。

この本の中には印象的な一文があります。「In Holland the educational expenses are free till they are thirty years old.」という一文です。ここで述べられているように、オランダではなぜ30歳まで教育費が無料なのでしょう²。

その仕組みは学校教育体制にあります。自分の選んだ進路でも比較的容易に変更



できるようになっています。小学校卒業とともに、自分にあったスピードと自分に合う学び方から、受ける教育を選択できます。そしてそれが合っていなかったら、また進路を考え直すのです。

オランダでは同級生が同い年であることもほと

アナログな図書館探訪

子ども学部 家族・地域支援学科 講師
井原 哲人

私は、本学に着任する前に本学の図書館にお世話になったことがあります。大学院生時代、『児童』という雑誌を見せてもらいに来ました。その雑誌には、児童福祉法が作られて間もない時代の施設関係者や厚生官僚が多くの文章を寄せていました。児童福祉法の作成に直接携わった厚生官僚の思いが語られた座談会の記録、戦後復興期に児童福祉施設関係者と厚生省が共催した職員研修会の議事録、欧米に視察に行っていた厚生官僚の報告書などが掲載されています。戦後、社会福祉の制度や理念はずいふんと発展・拡大した部分もあり、現在の視点から見ると「？」と思う点もあります。しかし、いずれの著者も、戦後復興期に模索をしながらではありますが、戦後日本の児童福祉を築いていこうとする意欲をもっていました。その思いや主張に触れるために『児童』を探し、本学図書館にたどり着いたわけです。

現在、インターネット環境の普及などによって、本学を含め各大学などの図書館の蔵書を調べることは簡単にできます。電車に乗りながらスマートフォンで検索することも可能です。また、論文検索サイト (CiNii 等) も整備され、簡単に情報を取

集できるようになりました。でも、『児童』に掲載されている上記の情報は、現在も CiNii で検索してもヒットしません。では、どうやって情報を収集したか。実は、アナログですが、「芋づる式」にたどっていきました。論文の最後などに記されている「注」や「引用文献」の情報を元に、雑誌名、巻号をメモし、各大学図書館の蔵書を調べて (CiNii Books 等)、ようやく求めていた資料に出会えるわけです。

ただ、期待して、いざ図書館に足を運んでみると、中には想像していた内容とは異なる資料・論文であることも少なからずあります。それでも、同じ雑誌に掲載されている別の資料・論文と、「まぐれ」の出会いもあります。あるいは、同じ書棚にある別の書籍を手にとると、思いがけない内容であったりします。一方で、求めに求めて、探し続けたけれども出会えない資料もあります (私は今でも探し続けている資料があります)。

インターネットを通じて、ピンポイントで論文・書籍・資料を手にとることができます。しかし、大学図書館は「知の宝庫」です。ピンポイントだけの活用ではもったいない。少し視線をずらしてみれば、そこには素敵な「知」の出会いが待っているかもしれません。

図書館注：『児童』の no.1,4,10-11,14 を図書館で所蔵しています。(2015年3月現在)
また、発行団体が日本少年教護協会 (no.1-12)→日本児童福祉協会 (no.13-) に変更されています。

んどありません。あっても小学校まで、あるいは幼稚園までです。そのため、進路変更をしても、自分だけが年上・年下ということもないようです。



このようにオランダでは進路変更が一般的なため、失敗して恥ずかしい思いをすることもなく、何度も進路変更を重ねてようやく卒業する人もいます。だから30歳であっても教育費が無料なのかもしれません。

こうした環境が、失敗に対して寛容な人間性を育てているのだと思いました。

- 1 峯村武子著『Holland Style - catching a glimpse of modern Holland』(ほおずき書籍、2010)
- 2 給付に近い奨学金の充実により、高等教育まで教育費が実質無料となっていたが、2015年1月に学士課程学生向けの基礎奨学金等が廃止され、大学生から無料ではなくなった。
 - 大学評価・学位授与機構「オランダ2015年より基礎奨学金、旅費・交通費助成金を廃止 (諸外国の高等教育質保証動向)」
http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/qa/1231002_1542.html

図書館からのお知らせ



学術リポジトリを公開しました。(2014年5月)
<https://shiraume.repo.nii.ac.jp>

白梅学園大学・短期大学における研究・教育活動等の成果物を電子情報として収集・蓄積・保存し、外部に公開することによって研究・教育活動の発展に資することを目的としています。

大学刊行物「情報教育研究」「紀要」「研究年報」や博士論文を公開しています。(2015年3月現在)

図書館の思い出

子ども学研究科 修士課程
大井 安治

皆さんは、「図書館のイメージは？」と聞かれると、何と答えますか？

静か？ 知的？ 便利？ 地味？ 古い？

都内の大学生を対象としたアンケート調査では、これらの回答が上位に並んでいます。

私も、同じようなイメージを持っています。(私は、学生読者の皆さんのお父様と、同世代の大学院生です)

グーグルが英語 (google) でも日本語 (ググ) でも、動詞として使用され、辞書にも収録されている現在です。簡単に、多くのことを、インターネットで検索することができます。受験勉強も、図書館ではなく、「塾の自習室やスタバで」かもしれません。

図書館の役割も変わり、イメージも人それぞれ、時と場所で変わっていくのでしょう。

一方で、私が、大学生のアンケート調査と同じイメージを持っている様に、時代によらず、同じものを与え続けてくれる存在かもしれません。

図書館は、色々な映画やドラマのシーンに登場します。

図書館を取り上げている映画といえば、「図書館戦争」を思い浮かべる方も多いと思いますが、他にも、数々の映画で図書館は登場します。

hogwartsの図書館で、ハリー・ポッターがハーマイオニーやロンと、ひそひそ話をしているシーン、雫 (「耳をすませば」の主人公) が、借りた本の貸出カードに、いつも同じ名前 (天沢聖司、将来の恋人) を見つけるシーン、オリバー (「ある愛の詩」の主人公) とジェニー (将来の恋人) の出会いは、大学の図書館でした。

図書館には、変わらない何かがあるのかもしれませんが。

落ち着く場所であり、少し背筋が伸びる場所。自分の居場所であり、みんなの居場所。日常の中の、非日常でもある場所。

子供の頃の私の図書館の思い出は、「禁帯出の赤いシール」です。禁帯出の赤いシールの模様になぜかしたら、大人のイメージを感じ、少し緊張したことを思い出します。



皆さんの図書館の思い出は、何ですか？

●●●図書貸出ベスト 10●●● (2014 / 1 / 1 ~ 2014 / 12 / 31)

順位	回数	書名
1位	29回	施設で育った子どもたちの語り
2位	21回	子どもが語る施設の暮らし 2
2位	21回	本当は怖い小学一年生 ポプラ新書
4位	20回	どうぞのいす
5位	18回	はじめてのおつかい こどものとも傑作集 ; 56
6位	17回	育ちつづける人達 障害の現実と普通の生活のはざままで
7位	16回	しあわせな明日を信じて [1] 乳児院・児童養護施設の子どもたち 作文集
8位	14回	くれよんのくろくん 絵本・こどものひろば
9位	13回	夢をかなえる力 児童養護施設を巣立った子どもたちの進学と自立の物語
9位	13回	虐待を受けた子どもの回復と育ちを支える援助

例年同様、課題図書の出借が多かったです。また、汐見稔幸学長の著書「本当は怖い小学一年生」や、絵本では「どうぞのいす」、「はじめてのおつかい」、「くれよんのくろくんシリーズ」などが人気でした。

●●●ビデオ・DVD 閲覧ベスト 10●●● (2014 / 1 / 1 ~ 2014 / 12 / 31)

順位	回数	書名
1位	114回	塔の上のラプンツェル
2位	97回	眠れる森の美女
3位	85回	リトル・マーメイド
4位	52回	アラジン
5位	45回	魔法の宅急便
6位	41回	美女と野獣
7位	37回	ピノキオ
8位	34回	リトル・マーメイド2
9位	32回	アナと雪の女王
10位	31回	着信アリ2

「塔の上のラプンツェル」などのディズニー作品が人気でした。また、2014年に社会現象となった「アナと雪の女王」(10月受入) が早くもランクイン。ランク外では、映画「ものすごくうるさくて、ありえないほど近い」、「最強のふたり」などの閲覧が多くありました。